



## 火 災

### 原則は窒息消火

てんぷら油火災を消火する方法は、原則的には窒息消火することです。燃えているのが油だけで比較的火が小さいのなら、ガスの元栓を閉めてから、手前からすべらせるようにして静かなべのふたをすれば消火することが出来ます。

なべのふたが見あたらなかったり、炎が大きくてふたをするために近づけない場合には、シーツのような布を水にひたして固くしぼり、両手で広げて顔よりも高く掲げ、炎の輻射熱をさえぎりながらなべに近づいて、静かになべを覆います。この時あわてるとなべをひっくり返してしまい、大やけどをしたり燃え広がったりしますから注意しなければなりません。

いずれにしろ、とりあえず消火したように見えますが、最初のうちは油温が発火点を超えたままですから、少しでも油に空気が接触するとまた燃え出してしまいます。ガスを遮断して油温の下がるのを待つ必要があります。

### マヨネーズや菜葉を入れるのは考えもの

てんぷら油が発火したらマヨネーズを入れるとよい、と書いた本もあります。確かにポリエチレンのケースに入った相当量のマヨネーズを、ケースごと燃えている油の中に手前から静かに滑り込ませますと、ケースが溶けてマヨネーズが油の表面を覆い、間もなく消火します。しかし、燃えている油に静かにマヨネーズを滑り込ませることが難しいのです。思わず投げ入れたりとすると、油が飛び散って非常に危険です。

また大量の菜葉を入れると消火出来る、と書いた本もあります。油温が下がりますから確かに消火できるのですが、菜葉に水気がついていると油がはねて非常に危険です。

いずれも原理的には消火できないこととはないのですが、危険性が高いのでお勧めしかねます。

### てんぷら油火災専用消火器を使う

最も消火効果が高く危険性が少ないのは、「てんぷら油専用消火器」とか「家庭用消火器」とか言われるものを使う方法です。この消火器には「強化液」という消火剤が入っていて、油と化学反応を起こして油の表面に膜を作って消火します。直接油に放射せず、なべの縁にあてるようにして油面を覆うとよく消えます。火が消えたらすぐふたをして再燃を防ぐとともに、ガスを止めて油温が下がるのを待ちます。

普通の粉末消火器でも油面を覆うように放射すると消火できないことはありませんが、消火効果という点では強化液の入った消火器とは比べものになりません。てんぷら油火災は、誰でも起こす可能性がありますから、てんぷら油火災専用消火器を是非一本台所に備えておくとういでしょう。

# 石油ストーブの火災の消火の仕方

石油ストーブ火災では、火の着いた灯油が流れて周囲に延焼するのを防ぐことが大切です。

## 石油ストーブ火災は被害額が大きくなる

石油ストーブから出火する火災も、毎年出火件数の上位を占めています。石油ストーブから出火する火災は、火災1件当たりの被害額が他の火災に比べてはるかに大きくなるのが特徴です。これは、石油ストーブから火災が発生すると一気に周囲に延焼してしまう場合が多いことを示しています。

## 石油ストーブ火災の原因

石油ストーブ火災の原因として多いのは、

- ① 火をつけたまま給油していてこぼれた灯油に着火する場合
- ② ポータブル型の石油ストーブを火をつけたまま移動させる途中でひっくり返したり、灯油をこぼしたりして着火する場合
- ③ 灯油と間違えてガソリンを入れるなどの原因により異常燃焼する場合
- ④ 洗濯物などの可燃物が石油ストーブ



## ● 毛布で覆って水をかける

ブの上に落下して着火する場合などです。最近増えて来ているFF型や温風型などの据置型の石油ストーブは、③以外のケースでは火災を起こしにくいと言えるでしょう。

## 火の着いた灯油が流れて燃え広がるのが最悪

昔、「石油ストーブ火災はバケツの水で消せる」「いや、水をかけるのはやめるべきだ」という論争がありました。確かに、バケツの水を燃えている部分に一気にかけることができれば石油ストーブ火災でも消火できます。同じ「油火災」と言っても、「水は絶対に禁物」のてんぷら油火災とは違うのです。

てんぷら油火災の場合は、油の温度そのものが上がってしまっているた



## 火 災

しかし、少しずつしか水をかけなかったり、燃えている部分に水がかからなかったりすると消火に失敗することがあります。その場合には、火が着いた灯油が水の上に乗って流れ出しますから、一気に周囲に燃え広がる危険性があります。特に床に絨毯が敷かれていない場合にはその危険性が高いと思わなくてはなりません。



め、水をかけると爆発的に火の着いた油が飛び散ったりしますが、石油ストーブ火災の場合は、灯油の表面が燃えているだけで灯油そのものの温度は低いいため、そのような心配は要らないからです。

また、火が着いたストーブを庭先に蹴り出そうとして失敗し、火の着いた灯油が周囲に流れ出して火災を大きくしてしまうケースも少なくありません。

### 毛布で覆ってから水をかける

このような危険を避けるには、水で濡らした毛布やシートなどで燃えている部分を覆い、その上から水をかけるとよいのです。窒息消火と冷却消火の相乗効果で完全に消火できますし、あわてているため毛布などで完全にストーブを覆えなかった場合でも、火の着いた灯油が流れて広がるのを防ぐこ



とができます。

### 消火器で消す

消火器がある場合は、燃えている部分に向かって掃くように放射すれば消火できます。ただし、器具の内部から燃えている場合は、外から放射しただけでは完全に消火することが難しいので、外側が消えた後で、内部まで消火剤や水をかけます。それが難しければ、改めて毛布などで覆って水をかければ万全です。

## 避難するときの注意

火災になったら、自分と家族の身の安全を図ることが最も大切です。避難のポイントを覚えておきましょう。

### とにかく早く避難することが大切

お年寄りや子供がいる場合は、火災が発生したらすぐ避難させなければなりません。また、初期消火に失敗した



場合や、消火する時期を失っている場合には、あなた自身もすぐ避難しなければなりません。避難が遅れると、そのまま死につながってしまいます。

普通の住宅火災の場合、死者が発生した階を調べてみると、二階よりも一階で死んでいる場合が多いのです。一階に寝ているのに火災に気付いたときには庭に逃げることもできない状態だった、という場合もありますし、二階から一階に降りてきたけれど、外までの逃げ道がもうなかった、という場合もあります。いずれにしろ「避難開始が遅ければ一階でも死んでしまう」と考えておかなければなりません。

### 避難するときは戸を閉めて

「決め手は早期発見と初期消火、危なくなったらすぐ脱出」(二一〇頁参

- 避難する時は戸を閉めて
- 絶対に引き返さない



照)でも述べたように、避難するときには、燃えている部屋のドアは必ず閉めてからにすることが鉄則です。このドアが閉まっていれば、延焼拡大や煙の拡散を多少なりとも遅らせることができますし、酸素の供給を制限して火の勢いを弱める効果もあるからです。

普通の住宅は避難する距離が短いので、避難するとき火災室のドアを閉め



## 火 災

ることができれば、避難はほとんど成功したものと考えてもよいほどです。燃えていない部屋から逃げる場合も、ドアを閉めておけば建物全体に延焼拡大していく速度を遅くすることができます。ですから、被害を少なくするのに役立ちます。

### 姿勢はできるだけ低くする

避難が遅れて煙に巻かれてしまった場合には、固くしぼった濡れタオルなどを鼻と口に当て、姿勢をできるだけ



低くし、状況によっては這うようにして避難します。

煙や一酸化炭素などの有毒ガスは、

熱せられて軽くなり、上の方に集まっています。姿勢を低くすれば、煙が薄くなつて避難路を見通すことができるようになります。新鮮な空気も下の方に残っていますから、有毒ガスを吸いにくくなるのです。

なお、濡れタオルを鼻や口に当てる時、ススや煙を遮る効果がありますので呼吸は楽になりますが、一酸化炭素などの有毒ガスを遮る効果はありませんので注意してください。

### 絶対に引き返さない

避難するとき、最も大切なのは「一度避難したら絶対に引き返さない」こ



とです。火災は時間を追って拡大しますが、ある時突然火の海になる「フラッシュオーバー」という現象を起こすことがあります。壮年の健康者が自宅の火災で死亡するのは、一度避難したのに大切なものを取りに戻ったためにフラッシュオーバーに巻き込まれて死亡する場合があります。彼らも「もう危ないかも知れない」と思いながら引き返したわけではありません。「さっきは大丈夫だった。まだ平気」と思ったから引き返したのです。火災は時間が経つと「突然火の海になる」ことがあることを忘れてはなりません。



## 戸建て住宅の火災

最近の住宅は火災に強くなっていますが、古い木造住宅は、火災発生危険も高く、火災が発生した場合に死者が出る可能性も高いので老人世帯などでは、特に注意しましょう。

### 最近の戸建て住宅は火災に強い

戸建て住宅と言っても、最近では随分いろいろな構造のものがあります。どの構造のものでも、最近のものは火災には相当強いものが多いのです。

コンクリート系のものが火災に強いのは当然ですが、木質系のものでも、内装に石膏ボードや不燃性のパネル類を用いているものが多いので、内装に着火しにくくなっていますし、延焼速度やフラッシュオーバーになる時間も遅くなっています。このような住宅で



は、火災になっても早く発見して適切に消火すれば被害を最小限にすることが出来ます。また、消火に失敗しても、逃げるとき火災室のドアを閉めることさえ忘れなければ、命を落とす可能性は低いのです。

### 古い木造住宅は要注意

これに対して古い木造住宅は火災に

### ●古い木造住宅は火災危険が高い

弱いものが多いことはご存知のとおりです。内装が薄い合板のものも多いですし、ふすまや障子なども多く使われていますから、着火しやすく、延焼速度も速いのです。このため、初期消火に失敗する可能性も高く、逃げ遅れることも多いのです。このような住宅の場合は、簡易型の煙感知器と消火器などを設置して、火災の早期発見、初期消火に努める必要があります。

### 古い木造住宅には老人世帯が多い

古い木造住宅には、老人世帯が多いことも不利な点です。老人世帯では、初期消火や避難が困難であることはもちろんですが、それだけではありません。老人世帯では、古いストーブやコンロを使い続けていることが多いので